

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

| | |
|---------------|--------------------------------------|
| 事業所番号 | 4071201133 |
| 法人名 | 有限会社 サライ |
| 事業所名 | グループホーム みんなの家 |
| 所在地 (電話番号) | 福岡県福岡市西区能古324-1 (電話) 092-894-1305 |

| | | | |
|-------|---------------------------|-------|------------|
| 評価機関名 | 株式会社アーバン・マトリックス | | |
| 所在地 | 福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階 | | |
| 訪問調査日 | 平成21年2月12日 | 評価確定日 | 平成21年3月12日 |

【情報提供票より】(平成20年12月1日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|-----------|--------|-------------------------|
| 開設年月日 | 平成17年2月1日 | | |
| ユニット数 | 2 ユニット | 利用定員数計 | 18 人 |
| 職員数 | 17 人 | 常勤 | 16人, 非常勤 0人, 常勤換算 14.6人 |

(2) 建物概要

| | |
|------|----------------------|
| 建物構造 | 木造造り 2階建ての1階～2階部分 |
|------|----------------------|

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | | |
|---------------------|-------------|----------------|----------------|-------|
| 家賃(平均月額) | 50,000円 | その他の経費(月額) | (光熱水費) 20,000円 | |
| 敷金 | 無 | | | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 有(200,000円) | 有りの場合 償却の有無 | 有 | |
| 食材料費 | 朝食 | 200 円 | 昼食 | 400 円 |
| | 夕食 | 550 円 | おやつ | 50 円 |
| または1日当たり 1,200円 | | | | |

(4) 利用者の概要(12月1日現在)

| | | | | | |
|-------|-----------|------|------|----|------|
| 利用者人数 | 18 名 | 男性 | 5 名 | 女性 | 13 名 |
| 要介護1 | 5 名 | 要介護2 | 5 名 | | |
| 要介護3 | 6 名 | 要介護4 | 0 名 | | |
| 要介護5 | 2 名 | 要支援2 | 0 名 | | |
| 年齢 | 平均 87.4 歳 | 最低 | 60 歳 | 最高 | 95 歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|-------------------------|
| 協力医療機関名 | 吉田内科医院 / きむら歯科 / 南川整形外科 |
|---------|-------------------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

豊かな自然に恵まれた能古島は、玄海国定公園の中に位置し、姪浜港から約10分で到着する渡船場の対岸には、福岡タワーやドーム球場などの大規模建造物を眺めることができる。この島唯一のグループホームである「みんなの家」は、木造2階建てで周囲は梅林や自然林に囲まれ、四季折々の花や樹木とふれあひながら、入居者・職員が穏やかな時間を共に過ごしている。玄関に入るとリビングがあり、その奥には広いウッドデッキが設けられ、天気の良い日は、海を眺めながら、食事やティータイムを楽しむことができる。近くのネコも立ち寄り、入居者の楽しみになっている。近隣には同法人のデイサービスセンターもあり、グループホームと共に地域の中で重要な役割を担っている。

【重点項目への取り組み状況】

| | |
|------|---|
| 重点項目 | 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) |
| | 前回の評価を受け、管理者・職員と共に話し合い、中学生の職場体験や職員研修の充実・地域との交流などに積極的に取り組んでいる。職員一人ひとりが、外部評価を活かし、日々のケアやサービスの質の向上につながるよう努めている。 |
| 重点項目 | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) |
| | 自己評価は、職員全員で評価の意義を確認し話し合い、管理者がまとめている。外部評価の実施の際には会議を開き、サービスの質の向上につながるよう努めている。 |
| 重点項目 | 運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) |
| | 運営推進会議には、家族・自治連合会・民生委員・老人クラブ・駐在所・消防団などからの参加があり、状況報告・意見交換を行いながら、サービスの質の向上に努めている。行政担当者とは、状況報告や相談などの連携が認められるが、近年は運営推進会議への出席がなく、今後は日程調整など更なる開催の工夫が期待される。 |
| 重点項目 | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9) |
| | 玄関ホールに苦情ボックスを設置している。運営推進会議に家族の参加があり、その際、意見や意向を把握できるように取り組んでいる。また、面会や電話の際に意見・要望などに配慮して聞くよう努め、運営面の充実を図っている。 |
| 重点項目 | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) |
| 重点項目 | 島内での顔なじみの関係からホーム職員であるとの認識がされており、渡船での移動中など日常生活の中で、地域住民から介護や認知症についての相談を受けている。また、島内の中学生が、介護福祉体験学習に訪れている。校区の夏祭りや運動会・バザー・社協主催のふれあい会食会・敬老会への参加もあり、地域交流に積極的に取り組んでいる。 |

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------------|----|---|---|-----|--|
| .理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | 地域密着型サービスとしての理念 | ホーム開設時に、職員全員で話し合い、事業所独自の理念として「笑顔のある暮らし」をつくりあげている。前回の評価で、地域密着型サービスとしての理念の検討が求められ、今後に期待したい。 | | 前回の評価で地域密着型サービスの意義をふまえた理念の検討が求められており、今後は職員と共に考えていきたいとの意向が確認できた。引き続き、理念の検討を期待したい。 |
| | | 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | | | |
| 2 | 2 | 理念の共有と日々の取り組み | 職員だけではなく、地域の人達や入居者・家族にも理解していただけるように玄関ホールに理念を掲示し、職員には月1回の会議や担当会議などで理念について話し合い確認し共有化を図っている。 | | |
| | | 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | 地域とのつきあい | 島内での顔なじみの関係からホーム職員であるとの認識がされており、渡船での移動中など日常生活の中で、地域住民から介護や認知症についての相談を受けている。また、島内の中学生が、介護福祉体験学習に訪れている。校区の夏祭りや運動会・バザー・社協主催のふれあい会食会・敬老会への参加もあり、地域交流に積極的に取り組んでいる。 | | |
| | | 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | 評価の意義の理解と活用 | 自己評価は、職員全員で評価の意義を確認し話し合い、管理者がまとめている。外部評価の実施の際には会議を開き、サービスの質の向上につながるよう努めている。 | | |
| | | 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | | | |
| 5 | 8 | 運営推進会議を活かした取り組み | 運営推進会議には、家族・自治連合会・民生委員・老人クラブ・駐在所・消防団などからの参加があり、状況報告・意見交換を行いながら、サービスの質の向上に努めている。行政担当者とは、状況報告や相談などの連携が認められるが、近年は運営推進会議の出席がなく、今後は日程調整など更なる開催の工夫が期待される。(現在は4~5ヶ月に1回の開催) | | 運営推進会議の定期的な開催(2ヶ月に1回)に向けての取り組みに期待したい。 |
| | | 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------|----|--|---|-----|----------------------------------|
| 6 | 9 | 市町村との連携 | 区役所や地域包括支援センターなどに更新の手続きやサービス内容の変更時に入居者の様子や家族との関りなど状況報告を行い、担当者から助言を受けている。今後は、運営推進会議の参加も含め、更なる連携を期待したい。 | | |
| | | 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | | | |
| 7 | 10 | 権利擁護に関する制度の理解と活用 | 外部研修に参加し、入居時に必要な方には説明している。また、行政や関係団体と相談しながら、必要な方には活用できるように支援している。 | | |
| | | 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。 | | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 8 | 14 | 家族等への報告 | 家族の訪問時には状況報告に努め、利用明細書の送付時や面会時を利用したり、電話で日々の暮らしぶりを報告している。3ヶ月毎に発行される「みんなの家新聞」では、行事の報告・職員紹介を写真付きで掲載し、ホーム全体の様子や状況などがわかるように取り組んでいる。 | | |
| | | 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | | | |
| 9 | 15 | 運営に関する家族等意見の反映 | 玄関ホールに苦情ボックスを設置している。運営推進会議に家族の参加があり、その際、意見や意向を把握できるように取り組んでいる。また、面会や電話の際に、意見・要望などに配慮して聞くように努め、運営面の充実を図っている。 | | |
| | | 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | | | |
| 10 | 18 | 職員の異動等による影響への配慮 | 入居者の混乱を防ぐためにも、職員の離職や異動などは、報告しないようにしている。離職や異動が判断できる方には報告している。また、家族にも必要に応じて報告している。離職を最小限に防ぐために、なじみの関係づくりに配慮し、職員との個人面談などの機会をつくりながら、運営に関する意見・提案を聞くように努めている。 | | |
| | | 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | | | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 11 | 19 | 人権の尊重 | 職員の採用時には、管理者2名が面接に参加し、年齢や性別を理由にしたの排除はなく、意欲や人柄を重視している。また、職員が生きがいをもって勤務できるように資格取得や研修参加への支援も行っている。 | | |
| | | 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。 | | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------|----|---|---|-----|-----------------------------------|
| 12 | 20 | 人権教育・啓発活動 | 入居者を人生の先輩として尊重する態度を日頃から身につけるように内部研修を実施し、外部研修も実施している。高齢者虐待防止についての外部研修にも参加し、会議の中で取り上げるなど伝達している。日常業務の中でも接遇について確認し、意識向上に努めている。 | | |
| | | 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。 | | | |
| 13 | 21 | 職員を育てる取り組み | 職員が外部研修など積極的に受けられるように支援する体制を整えている。研修記録から職員の能力・経験に応じた外部研修への参加が確認できた。今後は、資格取得の研修なども積極的に支援していきたいと考えている。 | | |
| | | 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | | | |
| 14 | 22 | 同業者との交流を通じた向上 | 島という立地特性上、他グループホームとの交流・連携が取りにくい状況にある。現在、他法人の研修に参加するなどの取り組みがあるが、交流するまでには至っていない。今後は同業者や行政のネットワークを活用しながら、サービスの質の向上や職員育成を目指して相互訪問や勉強会の実施に向けて準備中である。 | | |
| | | 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | | | |
| 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 15 | 28 | 馴染みながらのサービス利用 | サービス利用開始前には自宅へ訪問し、本人・家族から希望や状況を聞き取りながら、信頼関係を築くように努めている。入居1ヶ月の介護計画は暫定とし柔軟に対応できるように支援している。宿泊室もあり、なじみまでの時間を家族と共に過ごすなど徐々にホームに慣れていただけるように取り組んでいる。 | | |
| | | 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 16 | 29 | 本人と共に過ごし支えあう関係 | 管理者・職員は入居者に対して、人生の先輩として敬意を払い、職員みんなで入居者の生活歴や情報を共有し共感したり、日頃接する中で介護する側・される側という意識を持たずに共に支えあう関係づくりに努めている。 | | |
| | | 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|---------------------------------------|----|--|--|-----|----------------------------------|
| .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1.一人ひとりの把握 | | | | | |
| 17 | 35 | 思いや意向の把握 | 入居前後の本人・家族へのアセスメントを行い、希望や意向の把握に努めている。また、意思の疎通が難しい場合には、声かけや表情を観察して、その都度検討している。今後は更に職員みんなで表情・声かけなど気づいたことをメモし、カンファレンスで検討するなどを希望や意向の把握に期待したい。 | | |
| | | 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | | | |
| 2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 18 | 38 | チームでつくる利用者本位の介護計画 | 入居時に本人・家族など関わった人達とよく話し合っ て、本人が穏やかにホームで暮らし続けるケアができる ようにケアプランを作成している。 | | |
| | | 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | | | |
| 19 | 39 | 現状に即した介護計画の見直し | 毎月のケアプラン実施表と3ヶ月毎のモニタリングの見直しを行い、変化が出た場合には、家族や担当職員と話し合い、その都度対応できるケアプランに変更している。今後は、アセスメントを活用し本人の思いや意向にそったプランになっているかなど、見直しの際のポイントに考慮してほしい。 | | |
| | | 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | | | |
| 3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用) | | | | | |
| 20 | 41 | 事業所の多機能性を活かした支援 | 同法人が運営するデイサービスセンターと合同で「みんなの家祭り」を開催したり、デイサービスセンターを活用するなど法人としてのスケールメリットを活かした取り組みがある。また、入居者の家族の面会時には、船着場への送迎や遠方の家族がゆっくりと過ごすことができるように宿泊室を用意し入居者と家族がゆっくりと過ごすことができるように取り組んでいる。 | | |
| | | 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | | | |
| 4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働 | | | | | |
| 21 | 45 | かかりつけ医の受診支援 | 協力医療機関から週1回の往診があり、24時間の連絡体制がとられている。本人・家族の希望するなじみのかかりつけ医への受診・往診にも柔軟に対応している。 | | |
| | | 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------|----|--|--|-----|-----------------------------------|
| 22 | 49 | 重度化や終末期に向けた方針の共有 | 「重度化した場合の対応に係る指針」が作成され、医療連携のもと24時間連絡可能な体制を取っている。看取りについて、具体的な対応などが定められているが、今後、ホームでは、どの程度の病状に対応できるのか、また、家族の協力や医療処置・看護など、指針にそったマニュアル作成が望まれる。 | | |
| | | 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | | | |
| . その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1) 一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 23 | 52 | プライバシーの確保の徹底 | 入居者一人ひとりの人格を尊重してプライバシーを損ねないように言葉かけや対応に配慮するように取り組んでいる。記録などの個人情報の取り扱いは保管・管理を行っている。 | | |
| | | 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | | | |
| 24 | 54 | 日々のその人らしい暮らし | 一日の基本的なスケジュールはあるが、入居者の希望や生活習慣・体調を把握し、入居者一人ひとりのペースにそった暮らしができるよう、職員が余裕を持って接することができるように支援している。 | | |
| | | 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | | | |
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 25 | 56 | 食事を楽しむことのできる支援 | 入居者と職員と一緒に楽しみながら食事している。入居者と家族の協力により畑で野菜を育てており、収穫を楽しみながら食卓に並ぶこともある。個々の能力により、調理の準備や後片づけは、できる人に手伝っていただいている。行事などの際には、希望の献立を準備するなど食事を楽しんでいただくように支援している。 | | |
| | | 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | | | |
| 26 | 59 | 入浴を楽しむことができる支援 | 一日おきの入浴を基本としながら、一人ひとりの生活習慣や希望にそって、毎日風呂を沸かし、入浴の準備を整えることで柔軟に支援している。入浴を希望しない場合は、タイミングをはかり入浴の支援を行っている。重度の入居者の方は、職員2名で対応している。 | | |
| | | 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------|----|--|--|-----|-----------------------------------|
| 27 | 61 | 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 個々の能力や生活習慣に応じて、洗濯物をたたんだり、食後の後片づけなど、強制的にならないようにできる力を活かせるように取り組んでいる。また、花見や外食に行ったり、ゲームやカラオケなど楽しんでいただけるように取り組んでいる。 | | |
| 28 | 63 | 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 季節や天候などの状況に応じて、毎日のようにドライブや散歩など声かけをしている。買い物も島内の店に本人がお金を持って買い物できるように支援している。入居者の外出希望にそって、入居者・職員が1対1で外出できるように計画中である。 | | |
| (4)安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 29 | 68 | 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 居室には鍵を付けていない。玄関は自由に出入りできるよう昼間は開放している。日頃から職員は気を配り、入居者が外出する場合には、後から同行している。 | | |
| 30 | 73 | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | マニュアルを作成し、消防署・消防団の協力を経て、年2回実施している。また、地域で行われる避難訓練にも参加し協力関係を築いている。 | | |
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 31 | 79 | 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 栄養士によるカロリー計算、バランスが取れた食事・献立表をもとに食材を一括購入して職員が調理している。一人ひとりの食事・水分摂取量がわかるように記録し栄養状態を把握している。それを定期的に医師に報告している。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------|----|---|--|-----|-----------------------------------|
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1) 居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 32 | 83 | 居心地のよい共用空間づくり | 玄関入り口と上り口とドアは二重になっており、季節によって温度や明るさ、音の調節ができるように工夫され、リビングはキッチンと和室が併設されている。やわらかな自然光が入るリビングからウッドデッキにつながっており、テーブルや椅子が用意され、四季折々の景色を楽しむことができ、居心地のよい空間としての工夫がある。 | | |
| | | 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | | | |
| 33 | 85 | 居心地よく過ごせる居室の配慮 | 本人が使い慣れた写真やテレビ・仏壇など、なじみの物が持ち込まれ、居心地のよい空間となっている。書くことが好きな方の部屋には、机と椅子が持ち込まれるなど、その人らしく過ごすことができるように支援している。 | | |
| | | 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | | | |